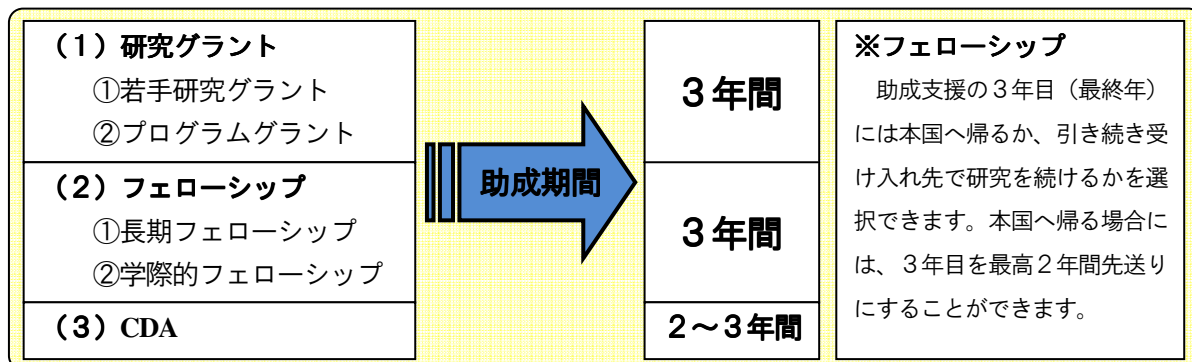


5. 助成期間と助成金額について

5.1 助成期間



5.2 助成金額

(1) 研究グラント

年間の助成額は最大45万ドルが支給されます。

支給内容について

- ① 2人のチーム=25万ドル、3人のチーム=35万ドル、4人以上のチーム=45万ドル（チーム全体での年間支給額。支給期間は3年間）。
- ② 同じ国に所在する2人以上のメンバーは、支給額の算定上は1人と見なされます。ただし、国内で学際的な共同研究を実施するために、これらのメンバーの参加が不可欠である場合は、1.5人と見なされます（現在、2.5人のチームには30万ドル、3.5人のチームには40万ドルが支給されています）。
- ③ 2人のメンバーからなるチームで、そのうちの1人が営利機関に所属している場合、支給総額は12万5000ドルに減額されます。それ以外の場合は、営利機関に所属しているメンバーは、支給額の算定上はメンバーの数に含まれません。

A 対象となる費用

① 設備費

設備の購入は、提案されている新しい共同研究を実施するために必要不可欠なものでなければなりません。その時点で、国内で実施されているプログラムを補うために、設備を購入することは認められません。参加研究機関は、その時点で実施されている研究を遂行するために必要な設備をすでに保有していると見なされます。HFSP グラントの資金は研究機関ではなく、国際共同研究チームのメンバー個人に対して支給されます。したがって、HFSP 研究グラントの支援で購入された設備は、そのメンバーが別機関に移る際は、そのメンバーと共に、新しい機関に移ることになります。

② 資材費および消耗品費

試薬、実験動物、および消耗品の購入費用。共同研究を実施するために必要なソフトウェアの費用も計上できます。一般的なオフィス用ソフトウェアの費用については、「⑦ その他の費用」に含めることが可能です（上限は10%）。

③ サービス費用

コンサルティングサービスおよびコンピュータサービスの費用。レンタル料金を含む。

④ 給与

新しいメンバーを加える際は、提案されている新しい共同研究を実行するために、そのメンバーが必要不可欠であることが条件となります。グラントの資金から、申請代表者または共同申請者に対する給与と扶助（「サマーサラリー」を含む）や、その他の直接的な報酬を支出することはできません。研究助手（ポスドク研究者、大学院生、技術者など）の給与は計上できますが、研究と直接関係のない職員（秘書など）の給与は計上できません。給与額は当該研究機関の給与体系に準ずるものとします。この助成は、専門教育を受けた人材による研究活動の支援を目的としており、教育研修プログラムではありません。したがって、学生の授業料は、通常、対象となる費用とは見なされません。

⑤ コミュニケーション費用

a. 会合（チームメンバーの合同会合、科学会議への参加費）
b. 出版（研究成果の出版に伴う費用）
c. 助成期間の3年目に HFSP が開催する受給者会合には、すべてのチームメンバーが参加することが望まれます。この会合に出席するための旅費および宿泊費には、グラントの資金を充当してください。

⑥ 旅費および日当

各チームメンバーと研究室のスタッフが対象となります（国内および外国への旅費と日当。日当は年間3カ月を上限とする）。

⑦ その他の費用

各研究機関はグラントの資金のうち直接費の10%を上限とする額を、間接費に充当することができます。間接費は、支給された資金から支出しなければなりません。HFSP が間接費（諸経費）の支払いのために、さらに資金を提供することはありません。

B 対象とならない支出

① 研究者の給与

研究代表者または共同研究者個人に対する報酬を、（たとえ一部でも）給与またはコンサルタント料として、HFSP グラントから支出することは認められません。

② 間接費（諸経費）

各研究機関がグラントの資金のうち、直接費の10%を超える額を、間接費に充当することは認められません。間接費は、支給された資金から支出しなければなりません。HFSP が間接費（諸経費）の支払いのために、さらに資金を提供することはありません。

③ 授業料

学生俸給が許される間、学生授業料は支出と認められません。

(2) フェローシップ

3年間で14万6千220ドル相当の生活費、年間4.925千ドル相当の研究費と旅費が支給されます。(年間4.68千ドル相当の家族(援助)手当あり)。

受給内容(フェローシップ手当)について

① 生活手当

生活手当は、生活に必要な手当であり、受入機関で指導を受けている間の生活費を賄うために支給されます。生活手当はフェローシップを行う国の通貨レートに応じて支払われます。フェローがフェローシップの最終年度に自国に帰国、または他の HFSP 加盟国に移動する場合は、この移動先の国の通貨レートが適用されます。

② 児童手当

HFSP フェローに子供がいる場合、児童手当の支給を受けることができます。手当は子供1人ごとに支払われ、初年度の生活手当の約10%に相当します。フェローが他の財源から児童手当を支給される場合は、HFSP の児童手当からその金額が差し引かれます。

③ 研究費および旅費

研究・旅費手当は、研究プロジェクトを実施するための費用に充てるためのものです。この手当は、フェローの研究の実施に必要な原料や資材の費用として支給されます。フェローシップ資金を用いて購入された備品はすべて、フェローシップ終了後も、受入機関の所有物となります。ただし、受入先の指導者がフェローに所有権を認める場合はこの限りではありません。この資金は、科学会議の出席料や、別の機関の研究者との共同研究に関連する旅費として使用することもできます。旅費は、実際に発生した費用を後から還付することとし、日当制としてはなりません。これらの給付金は、当該機関の経費勘定の形で管理することが望まれます。フェローはこれらの手当の用途について説明する義務を持ち、支給された手当のうち実際に使用しなかった資金は HFSP に返還しなければなりません。1年間に支給される研究・旅費手当の総額を使い切る必要はありません。ある年度に使用されなかった資金はすべて、自動的に翌年度に繰り越されます。フェローが前年に支給された額を超えて出費した場合など、赤字になった場合もある年度から翌年度に繰り越されます。研究・旅費手当からの出費は、フェローシップの期間中のみを対象としています。ただし、ノーコストの延長が申請され、認められた場合は除きます。フェローシップの2年目以降に繰延された未払い費用は、最終会計報告に計上できません。唯一の例外は、フェローがフェローシップの中断期間中に HFSP 受給者年次総会に出席した場合です。

④ 引越し手当

引越し手当は固定額で、自国と受入国を往復するフェローとその扶養家族の引越し代、例えば飛行機代、家財の輸送費、アパート賃貸契約の際の敷金に充てるためのものです。引越し手当はフェローに対して全額支払われ、いかなる控除もなされません。会計報告に計上する必要はありません。受領書(レシート)は必要ありません。引越し手当は、フェローが受入国および自国への移動にかかる費用を、他のいかなる資金源からも得られない場合のみ支給されます(例えば、フェローシップ開始時に受入機関が支給したり、フェローシップ終了時に新たな雇用者が支給する場合は対象になりません)。フェローは引越し手当を受給する前に、この条件が満たされていることを正式に表明する必要があります。

⑤ 育児休暇手当

HFSP フェローは、フェローシップ期間中最高 3 ヶ月の有給の育児休暇を取得することが可能です。育児休暇は、子供の誕生から 6 ヶ月以内に取得する必要があります。また、フェローシップ期間中に誕生した子供のみ適用されます。フェローシップは、育児休暇の取得分延長され、その期間フェローは生活手当と児童手当の支給を受けることができます。

2012 年度 諸手当一覧表

国名	通貨	生活手当 1 年目	生活手当 2 年目	生活手当 3 年目	研究費および旅費	児童手当
Argentina	ARS	75,000	78,000	80,400	15,000	7,500
Australia	AUD	64,800	67,800	70,800	7,500	6,480
Austria	EUR	41,700	43,620	45,540	4,500	4,140
Belgium	EUR	41,700	43,620	45,540	4,500	4,140
Brazil	BRL	90,000	94,200	98,400	14,160	9,000
Canada	CAD	49,800	52,320	54,720	6,000	5,820
Chile	CLP	15,000,000	15,750,000	16,500,000	2,613,600	2,532,000
China	CNY	220,200	225,000	229,800	45,600	22,020
Denmark	DKK	370,440	387,600	404,880	42,720	37,044
Finland	EUR	49,200	51,540	53,880	4,500	6,000
France	EUR	40,200	42,000	43,800	4,500	4,200
Germany	EUR	40,200	42,000	43,800	4,500	4,200
Greece	EUR	30,300	31,680	33,000	4,500	3,060
Hungary	HUF	6,048,000	6,324,000	6,601,200	680,400	604,800
India	INR	1,368,000	1,431,000	1,494,000	220,500	136,800
Ireland	EUR	42,360	44,340	46,320	4,500	4,236
Israel	ILS	154,320	161,400	168,480	24,720	15,420
Italy	EUR	36,000	37,560	39,120	4,500	3,600
Japan	JPY	6,431,520	6,732,900	7,034,160	642,000	624,000
Korea	KRW	33,000,000	34,500,000	36,000,000	5,580,000	3,300,000
Luxembourg	EUR	41,760	43,680	45,600	4,500	4,176
Mexico	MXN	289,800	303,000	316,200	54,000	28,980
Netherlands	EUR	41,700	43,620	45,540	4,500	4,140
New Zealand	NZD	78,600	82,800	86,400	9,000	7,860
Norway	NOK	402,000	420,000	438,000	46,500	40,200
Poland	PLN	103,740	108,480	113,160	20,160	10,380
Portugal	EUR	29,400	30,720	32,040	4,500	2,940
Spain	EUR	34,200	35,760	37,320	4,500	3,420
Sweden	SEK	457,200	478,800	500,160	52,500	45,720
Switzerland	CHF	76,800	80,400	84,000	6,744	7,680
UK	GBP	27,000	28,260	29,520	3,000	2,700
USA	USD	46,800	48,720	50,700	4,920	4,680

(3) CDA

2～3年の間に総額30万ドルが支給されます。

受給内容について

- ① CDA の支給額は、年間 10 万 US ドルで 3 年間に渡って支給されます（支給総額 30 万 US ドル）。
- ② CDA の支給開始には、受給者が受入機関で有給のポジションを得ていることが条件となります。従って、CDA 予算のうち受給者個人の給与や健康保険掛金を補填するために利用できる額には、上限が設けられています。
受給者個人の給与補填に当てることができる額は、助成初年度は 3 万 US ドル、2 年目は 2 万 US ドル、最終年度は 1 万 US ドルが上限となります。上記の限度額内であれば、CDA からの資金を使って、同じ研究機関の同様のポジションと同水準になるまで給与を補填することが認められています。
- ③ 通常、研究要員（技術者、博士号取得者、学生）の給与を支援することも認められています。さらに装置類や備品また会議参加費／旅費に充てることも可能です。
- ④ 研究機関の一般費用等の間接費については、各年度の研究費／旅費に充当した CDA 利用合計額の 10%を上限とします。
- ⑤ 支給期間中は毎年度末に、自らの研究に関する研究報告書および財務報告書を提出しなければなりません。報告書が期日に届かない場合は、奨学金の支給は打ち切られます。
- ⑥ 不正な支出もしくは虚偽の会計報告が行われた場合、あるいは研究報告書もしくは財務報告書が提出されなかった場合、本機構は助成金の全額または一部の返済を要求することがあります。
- ⑦ CDA 受給者は、受給期間中、毎年開催される HFSP 受給者会合への出席が推奨されます。

5.3 助成実績

(1) 実績

	＜研究グラント＞				＜長期フェローシップ＞		
	応募件数	第一段階 採択件数	最終採択件数	採択率	応募者数	採択者数	採択率
1990年度	235	-	29【9】	12.3%	202	77【17】	38.1%
1991年度	239	-	32【3】	13.4%	348	98【25】	28.2%
1992年度	281	-	37【4】	13.2%	499	125【33】	25.7%
1993年度	332	-	42【6】	12.7%	555	147【35】	27.4%
1994年度	351	-	40【4】	11.4%	613	159【23】	26.1%
1995年度	389	-	52【5】	13.4%	711	160【29】	22.5%
1996年度	439	-	45【3】	10.3%	846	160【32】	18.9%
1997年度	385	-	48【4】	12.5%	807	160【20】	19.8%
1998年度	381	-	47【3】	12.3%	704	160【25】	22.7%
1999年度	365	-	50【0】	13.7%	682	159【21】	23.5%
2000年度	315	-	54【7】	17.1%	652	144【20】	22.1%
2001年度	386	-	53【6】	13.7%	665	81【11】	12.2%
2002年度	548	72	37【2】	6.8%	567	94【16】	16.6%
2003年度	549	80	31【4】	5.6%	639	90【12】	14.1%
2004年度	733	67	33【2】	4.5%	673	90【9】	13.4%
2005年度	719	86	34【0】	4.7%	609	89【12】	14.6%
2006年度	749	81	32【5】	4.3%	629	83【14】	13.1%
2007年度	756	80	35【2】	4.6%	614	95【8】	15.5%
2008年度	774	88	32【1】	4.1%	580	95【11】	16.4%
2009年度	600	88	35【2】	5.8%	633	93【6】	14.7%
2010年度	675	84	34【1】	5.0%	592	74【4】	12.5%
2011年度	674	88	34【4】	5.0%	762	76【8】	10.0%
合計	10,875	-	866【77】		13,582	2,509【391】	18.5%

＜学際的フェローシップ＞			
	応募者数	採択者数	採択率
2005年度	65	12【2】	18.5%
2006年度	55	10【0】	18.1%
2007年度	54	5【0】	9.3%
2008年度	56	12【1】	21.4%
2009年度	39	7【0】	17.9%
2010年度	55	12【0】	21.8%
2011年度	63	9【0】	14.3%
合計	387	67【3】	17.3%

【】内については、研究グラントは、研究代表者が日本人であるグラントの採択件数、フェローシップ、CDAは日本人の採択者数

＜キャリア・ディベロップメント・アワード＞			
	応募者数	採択者数	採択率
2003年度	22	8【1】	36.4%
2004年度	41	17【3】	41.5%
2005年度	47	18【1】	38.3%
2006年度	51	29【4】	56.9%
2007年度	48	24【3】	50.0%
2008年度	57	21【3】	36.8%
2009年度	49	22【4】	50.0%
2010年度	47	16【1】	34.0%
2011年度	40	8【2】	20.0%
合計	402	163【22】	40.5%

(2) 2011 年度に採択された日本人研究者の参加する研究グラント

(2011 年度に採択された日本人研究者)

■プログラムグラント:7名採択(研究代表者1名)

①田中 元雅

(理化学研究所脳科学研究センター チームリーダー)

“Characterization of conformational space in prion proteins using single-molecule techniques”

(プリオンの立体配座空間の1分子技術を用いた評価)

②五島 剛太(研究代表者)

(名古屋大学大学院理学研究科 准教授)

“Plasticity of non-centrosomal microtubule networks”

(非中心体微小管ネットワークの可塑性)

③永田 和宏

(京都産業大学総合生命科学部 教授)

“Cell Stress and Proteostasis Dysfunction in Aging and Disease”

(老化と疾患における細胞ストレスとタンパク質恒常性障害)

④黒田 真也

(東京大学理学系研究科 教授)

“Cellular Information Processing and Decision Making: from Noise to Robust Phenotypes”

(細胞情報処理と意志決定:ノイズから頑強な表現型まで)

⑤石戸 聡

(理化学研究所 チームリーダー)

“Substrate recognition by MARCH ubiquitin ligases: a paradigm of membrane-associated immunoregulation”

(MARCH ユビキチンリガーゼによる基質認識:膜関連免疫調節のパラダイム)

⑥安藤 敏夫

(金沢大学理工研究域 教授)

“Visualizing nanometer-scale structural plasticity of synapses in real time using AFM”

(AFMを用いたナノメータースケールのシナプスの構造的可塑性のリアルタイム可視化)

⑦安田 涼平

(デューク大学 准教授)

“Visualizing nanometer-scale structural plasticity of synapses in real time using AFM”

(AFMを用いたナノメータースケールのシナプスの構造的可塑性のリアルタイム可視化)

■ 若手研究グラント:6名採択(研究代表者3名)

①上川内あづさ

(東京薬科大学生命科学部 助教)

“From genes to circuits: the evolution of species-specific communication in *Drosophila*”
(遺伝子から回路へ:ショウジョウバエにおける種特異的なコミュニケーション)

②石井 優(研究代表者)

(大阪大学免疫学フロンティア研究センター 教授)

“Visualization and identification of bone marrow niches by imaging and computational technology”
(イメージングとコンピュータ技術による骨髄ニッチの可視化と同定)

③若本 祐一

(東京大学大学院総合文化研究科 教授)

“Multi-Level Conflicts in Evolutionary Dynamics of Restriction-Modification Systems”
(制限修飾系の進化のダイナミクスにおけるマルチレベルのコンフリクト)

④清水 健太郎(研究代表者)

(チューリッヒ大学植物生物学研究所 教授)

“Network merging analysis of duplicate genome function in recently hybridized species”
(最近の交雑種における複製遺伝子機能のネットワーク混合解析)

⑤瀬々 潤

(お茶の水女子大学 准教授)

“Network merging analysis of duplicate genome function in recently hybridized species”
(最近の交雑種における複製遺伝子機能のネットワーク混合解析)

⑥高野 順平(研究代表者)

(北海道大学大学院農学研究院 助教)

“Molecular dissection of Casparian strip function in nutrient homeostasis in higher plants”
(高等植物の栄養を含むホメオスタシスのカスパリー線機能の分子分析)

■ キャリアデベロップメントアワード:2名採択

①華山 力成

(京都大学大学院医学研究科 助教)

“Molecular mechanisms of axon pruning by glial cells”
(グリア細胞における軸索剪定の分子メカニズム)

②田中 博和

(大阪大学大学院理学研究科 助教)

“Elucidation of molecular mechanisms controlling cell specification and cell polarity in *Arabidopsis*”
(シロイヌナズナにおける細胞特定化と細胞極性を制御する分子メカニズムの解明)